

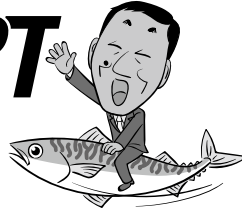
市内特別
郵便

さば和則

県政REPORT

No.40

佐波和則オフィシャルサイト www.saba-3839.jp



こちらから「さば和則」をお開けください。

※濡れている場合は十分に乾かしてから開いてください。

明けましておめでとうございます



希望に満ちあふれた新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。
昨年は4月に行われた統一地方選挙のもと、三期目をスタートさせていただきました。
本年も県民の皆様が安全で、安心して暮らせる社会環境、生活環境の整備に向けて、全力で取り

組み、「ものづくり産業県」である本県が日本をリードしていけるよう、経済活性化や雇用の維持・拡大に注力してまいります。
本年も変わらぬご支援・ご指導をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

議会日程 & 議案結果

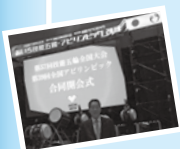
12月定例議会は、12月3日～12月20日まで開かれ、一般会計で24億6,859万円の補正予算案をはじめ、条例改正、意見書などを審議し、すべて可決しました。主な補正予算案では、あいちオレンジタウン構想の取り組みの全県への波及を加速させるため、次期アクションプランの策定に向けた調査及び検討に係る債務負担

行為や豚コレラへの緊急対策に要する経費等が計上されました。
なお、議会初日には、16年連続して交通事故死者数全国ワースト1位という危機的状況を打開するため、県民と一丸となって交通死亡事故の根絶に取り組む決議(案)を可決しました。

県政を取り巻く状況

あいち技能五輪・アビリンピック2019

11月15日から18日にかけて県内4市9会場で開催し、約18万人の方が来場しました。メイン会場である愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」では約9万m²の施設を余すところなく使用し、大会史上初となる技能五輪とアビリンピックを同一会場で開催しました。本県選手団は、技能五輪では15年連続の最優秀技能団賞を受賞、アビリンピックでは2年連続のメダル獲得数全国1位という素晴らしい成績となりました。連続開催となる来年度の大会に向けて、技能の素晴らしさや障害のある方への理解・認識を一層深めていただけるよう準備を進めていきます。



中部国際空港の機能強化

中部国際空港は、本年度上期の航空旅客数は699万人、発着回数は5万9千回となり、ともに過去最高を更新する勢いで推移しています(計画：1,350万人、11万回)。ここ数年は、アジア路線、24時間運用の利点を活かした深夜早朝時間帯の旅客便や国際空港貨物便の就航、昨年9月からはLCC向け第2ターミナルが共用開始となり、緊急時やピーク時の対応も踏まえ、中部国際空港の二本目滑走路をはじめとした機能拡充が不可欠となっています。

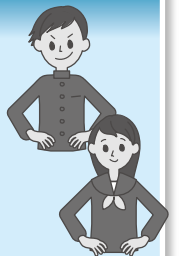


新時代に対応した工業高校の魅力向上

グローバル化やデジタル化の進展、女性の活躍促進等、本県のモノづくり産業界のニーズを踏まえ、2021年4月から県立工業高校について、学校名を改称するとともに、新しい学科・コースを創設します。技術革新が急速に進む中で、「工学」と「科学」の知見を生かし、新しい時代のモノづくりの担い手となる技術者を育成する学校にしていくとの思いを込めて、工業高校等14校を「工科高校」とします。

〈新設・拡大する学科・コースの概要〉

- 理工科(1校)：技術開発者や理工系大学を目指すテクノロジスト育成
- IT工学科(4校)：急速にデジタル化が進む現場の即戦力となるIT人材育成
- 環境科学科(4校)：SDGs未来都市である本県のモノづくり産業の発展に貢献できる人材育成
- ロボット科(7校)：ロボット産業の技術者・技能者としての創造力と即戦力を兼ね備えた人材を育成
- 生活コース(8校)：モノづくり女子として活躍し、仕事と生活を両立できる人材育成



主な代表 一般質問要旨

ロボット産業の振興について

知事 2020年10月開催予定のワールドロボットサミットとロボカップアジアパシフィック大会の同時開催は、本県のロボット産業の振興を図る上で大きな契機になります。開催効果を活かしながら、研究開発や社会実装、人材育成などを一層推進し、世界に誇れるロボット産業の拠点形成を図っていきます。



あいべえ (Ai-beh)

子ども・子育て支援について

知事 すべての子ども、子育て家庭への切れ目ない支援を重点目標として、保育所・放課後児童クラブの整備や、多様な保育サービスの拡充、ひとり親家庭支援などの貧困対策、児童相談センターの体制強化、障害のある子どもたちや外国人児童への支援の充実にも取り組んでいきます。次期「あいちはぐみんプラン」においては、保育人材の確保を基本施策に明確に位置付け、保育士の養成、離職防止等に積極的に取り組んでいきます。



児童虐待防止に関する取り組みについて

知事 児童相談センターの体制強化を課題と認識し、これまでも3年間で児童福祉司や児童心理司など専門職員を48名増員してきましたが、本県では児童福祉司等を現在の207人から300人程度に増員する必要があります。2020年4月採用の社会福祉職及び心理職の採用試験において新たに「30歳から59歳まで」を対象とした特別募集を行い、経験豊富で専門性の高い人材を採用するなど、未来を担う子どもの命を守ることを最優先に取り組みます。



トピックス

西知多道路常滑市内起工式

西知多道路整備で、12月1日に県事業区間(4km)である常滑市内で起工式が行われ、新たな一歩を踏み出しました。東海JCT周辺(2km)では国が一昨年12月に着工し、知多市内の一部区間(4km)は県事業が決定しているものの、残りの知多・東海市の未事業区間(8.5km)の事業化に向けて取り組んでいきます。

SDGs 未来都市あいちの推進

本県は持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い地域として、2019年7月に国から「SDGs未来都市」に選定され、8月に「愛知県SDGs未来都市計画」を策定しました。今回は今後3年間に先導して進める取り組みについて、抜粋してご報告いたします。

ながらスマホ罰則強化

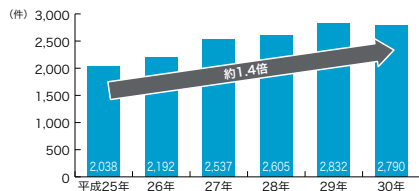
運転中の「ながらスマホ」による交通事故が増加しており、一瞬の油断が悲惨な交通事故を招いています。こうした中、道路交通法が改正され、12月1日から、運転中の「ながらスマホ」に対する罰則が厳しくなりました。運転中にスマホ等を使用しなければならないときは、必ず安全な場所に停車してからにしましょう。



【普通車の場合】

違反点数：1点→3点
反則金：6,000円→18,000円

携帯電話使用等に起因する交通事故件数



【経済面】

■近未来技術等の社会実装の推進

「自動運転」「介護・リハビリ支援ロボット」「無人飛行ロボット」「サービスロボット」といった近未来技術の社会実装に向け、地域一丸となって取り組みを進めていく。

■スタートアップと既存企業の連携によるイノベーションの創出

県内のモノづくり企業とスタートアップとの連携を総合的に支援するなど、新産業・新ビジネスの継続的創出を図るための取り組みを進める。

■自動車分野における新事業展開支援

「100年に一度の大変革期」に直面している自動車関連の中小企業を対象に、新商品・新分野への進出意欲のある企業を発掘し、新規事業展開の支援を行う。

【社会面】

■若者の活躍促進

若者が社会で活躍できるよう、企業における若者の職場定着の取り組みを支援する。

■女性の活躍促進

全庁横断的に設置したプロジェクトチームのもと、経営者の意識改革やワーク・ライフ・バランスの推進、保育サービスの充実、女性の起業や再就職支援など、働く場における女性の活躍を促進する。

■高齢者の活躍促進

高齢者が能力や経験を活かし、働き続けられる雇用環境づくりや就業支援を強化するとともに、社会参加を促進し、地域の活動を担う人材の育成を行う。

【環境面】

■「あいち地球温暖化防止戦略2030」の推進

地球温暖化防止に関する取り組みを総合的かつ計画的に推進する。

■EV・PHV・FCVの普及促進

次世代自動車等先進エコカーの導入促進を始め自動車環境対策を推進する。

■循環型社会に向けた取り組み

多様な主体の連携のもと、新たな広域循環モデルの展開等による循環型社会の形成を目指す。

～旧年中は大変お世話になりました。

現場目線を大切に、未来へ続く街づくりに努めていきます～

